

DIGITAL DSD

この度は、デジタルDSDをお買い求めいただき誠にありがとうございます。

デジタルDSDは、マイクロプロセッサ制御、オートカット機能付単セル放電器です。

Ni-CdとNi-MH最新バッテリーに対し、放電電流とカット電圧を設定し最良の放電方法を行うことで、より高出力で長寿命に使用頂ける様開発致しました。
放電電流は1.0~3.0A (0.1Aステップ)、カット電圧は0.0~1.2V/cell (0.1Vステップ) で設定が可能です。
通常使用の場合は、ランタイム：~6%UP,電圧：1~2.5%UP,内部抵抗：~17%軽減させる事が可能です。

☆特徴

- ◇単セル独立放電&オートカット (1-6セルまで可能)
- ◇マイクロプロセッサによる正確な制御
- ◇可変放電電流 : 1.0~3.0A (0.1Aステップ)
- ◇可変放電終了電圧 : 0.0~1.2V (0.1Vステップ)
- ◇LCDパネル
- ◇12V入力電源仕様

☆使用方法

- 1.まずはじめに、デジタルDSDと12V電源を付属のコードで極性に気をつけてつなぎます。
- 2.DIS-Aボタンを押して、放電電流を1.0~3.0Aの範囲でお好みのレートに設定します。
- 3.次にCUT-Vボタンを押して、放電終了電圧を1セルあたり0.0~1.2Vの範囲でお好みのレートに設定します。
- 4.バッテリーをデジタルDSDに固定する際は、極性とバッテリー同士をつないでいるシャンテの位置を確認してください。
(シャンテ位置は、上部パネルで確認ください)
- 5.設定値とバッテリーの固定状況を再確認し、スタートボタンを3秒間押し続けスタートします。
- 6.放電後はオートカットされます。
- 7.放電終了後は、バッテリーをデジタルDSDより取り外してください。

注意：バッテリーをデジタルDSDに固定する際、極性またはバッテリー同士をつないでいるシャンテの位置が間違っているとユニットが壊れます。

Ni-MHバッテリーの上手な放電方法

最新高出力Ni-MHバッテリーは、内部抵抗が非常に低く、自己放電速度が非常に早いいため保管においては30%程度の充電残量が必要です。放電作業は、必ず充電前に行ってください。放電した状態で、長時間放置するとバッテリーにダメージを与えることがあります。

Ni-Cdバッテリーの上手な放電方法

高出力Ni-Cdバッテリーは、保管において放電する必要があります。1cellあたり0.9Vまで放電してください。保管期間が短ければ、1.0A放電をお勧め致します。1ヶ月以上の保管する場合は放電レートを3.0Vの高めにセットし同じ0.9Vでも、残量が多めになるようにします。

放電電流、放電終了電圧、設定表

	通常放電	イコライジング
Ni-MH	3.0A 1.0V	1.0A 0.9V
Ni-Cd	3.0A 0.9V	1.0A 0.9V

☆デッドショート (この方法は最新Ni-MHバッテリーに対して行う事は出来ません。)

デッドショートとは、バッテリー電圧を引き上げるための放電方法です。Ni-Cdバッテリーに対して保管前に1.0A・0.9Vまで放電を行うことで内部エネルギーを抜き取ります。放電終了後は、バッテリーをデジタルDSDより取り外しバッテリーの+と-極をシリコンコードでつなぎ保管します。翌週、極につないだシリコンコードを外し充電を行います。この際、充電器側が間違っただけでピークカット(ホルスピーク)を繰り返しますが無視し100%まで充電を行ってください。

☆使用前に

注意：デッドショートにはリスクが伴います。よくご理解された上でご使用ください。バッテリーや使用方法によっても異なりますが、デッドショートによりバッテリーの放出性とバッテリー電圧を高める事が出来る反面、一般的には放出容量は減ります。また、通常使用の場合と比較するとバッテリー自体の寿命も短くなります。よって、これらを犠牲にしても放出性を重視したい様なレースに適しています。また、耐久性の弱いバッテリーによっては初めてのデッドショートで使えなくなる物もあります。